

 全国曹洞宗青年会 

sousei

そうせい

2010年5月

No.149

新連載

お坊さん婚活心得
お寺暮らしのライフデザイン



- 3 全曹青、発信せよ。
電話相談員養成基礎研修会
阪神・淡路大震災 15周年慰霊法要
委員会、只今活動中
- 10 加盟団体ニュース・スポット
sousei ばれっと
兵庫県第二宗務所青年会
- 12 賛助費浄納御芳名簿
- 14 **新連載** お坊さん婚活心得 1
- 15 **新連載** お寺暮らしのライフデザイン 1
- 16 あまみずのダイアログ 10
山の麓にある、縁生の家(前編)
- 18 曹洞宗の装姿に学ぶ(完)
道元禅師頃の守持衣と掛絡
- 20 寺めぐり 街めぐり 4
清和源氏の流れを汲む鳥田家の菩提寺
長溪山永源寺を訪ねて
- 23 メメント 生死を想う 4

表紙写真:制作・撮影/日山賢吾(三重県 栖雲寺)



『sousei』発行日変更につきまして

甚だ勝手ですが、都合により、『sousei』発行日を以下のように変更致します。

変更前 1月、4月、7月、10月の各5日

変更後 2月、5月、8月、11月の各10日

発行日変更後の当該149号での報告になりましたこととお詫びすると共に、読者のみなさまにはご理解を賜りますよう、宜しくお願い致します。

全国曹洞宗青年会

『sousei』148号

掲載の画像について

当該誌3頁に掲載しました画像につきまして、読者の方より「喫煙行為を助長する」旨のご指摘を頂きました。弊会としてそのような意図は一切ございません。読者の方々におかれましては、当該誌の閲覧に際しましてその点をご留意頂き、ご理解を賜りたく存じます。

全国曹洞宗青年会

仏様の命をいかす

出張
にて
現場
にて
作業



高さ
60cm
参考価格
58,000円

曹洞宗



前



後

高さ
40cm
参考価格
42,000円

長い年月の香、ローソクの煤、汚れが落ちました。元は、彩色もない白木の御本尊様でした。

作業内容

仏具

宮殿・幢幡・天蓋・常花・金柱
真鍮仏具磨き・金メッキ再生

仏像

ご本尊・脇仏像・彩色仏像
伝統的修復・古色仕上げ

その他

内陣金壁工事・シックイ工事
位牌堂の修復・本堂の増改築
天井絵の現状保存

仏師から一言

古いお仏像には新品に比べ、はるかに価値のある場合が多く、修理が出来るうちに直す事が大切なポイント(数々の災害や火災から守り続けたからこそ...)

ハロークリーンの新しいサービス(分割OK)

晋山式を迎えるお寺様に、お祝いとして特別割引「晋山式パック」をご用意しました。

また、ご本堂の建て替えや、修理修復されているお寺様も「ハローパック!!」時代を受け継ぐお手伝い。

ご希望に応じた施工

「安価で、綺麗にしたい」「部分的に痛みを修復して、安価にしたい」
「新品のような仕上がりが希望」「風情を残し次世代に渡したい」
など様々なご希望を伺いながら最適なケアを見極めてご提案します。

安心・安全技術

ご住職様のニーズを取り入れ、寺院内の雰囲気サービスを内容に反映し、それを実践する力と伝統的な技術を構築し、素材やバランスかつ安全な施工に日々勤めております。また文化庁や企業に安全性試験 etc を提出し安全性も認められ、将来保存を第一に考慮しています。

見積もり無料

合い見積もりでも構いません。参考資料として頂ければ幸いです。「由諸ある仏像・仏具が、今後も保存されるためにも綺麗にし、子孫へと受け継がれる。」そんなお手伝いが出来ればと願っております。

齋藤商会

ハロークリーン ☎ 0120-918-388

〒151-0053 東京都渋谷区代々木 4-22-13-1F

営業所: 東京・愛知・愛媛・大阪 北海道~鹿児島まで

[E-mail] h.c.2009@jewel.ocn.ne.jp 受付 AM8:00~PM20:00

全曹青、発信せよ。

各地で続々開催!

日常で生きる傾聴法の習得を目指して

第18期全曹青の基幹事業である電話相談事業。その中核である「電話相談員養成基礎研修会」が、昨年12月2～3日の四国管区開催分を皮切りに、全国の各管区で続々と開催されました。

今号では、3月1～2日に開催された関東管区・全曹青開催分をレポートし、また3月末日までで開催された管区分のスナップと参加者の感想を紹介し、第18期全曹青のスローガンである「いのちの声に耳を澄ます」の実践への第一歩を踏み出した、全国の参加者の様子を紹介します。

※東北・九州管区開催分は次号にて詳報します。

2010
2/22-23 北信越管区

会場●石川県金沢市・大乘寺



2010
3/10-11 近畿管区

会場●京都府京都市・無学寺



2010
3/30-31 北海道管区

会場●北海道札幌市・ホテルライフォート札幌



2010
3/1-2 関東管区・全曹青

会場●東京都港区・曹洞宗檀信徒会館



2009
12/3-4 四国管区

会場●愛媛県西条市・興雲寺



2010
2/18-19 中国管区

会場●岡山県倉敷市・円通寺



2010
3/10-11 東海管区

会場●静岡県浜松市・館山寺ホテル開華亭





熱の入った講義の秋吉基幹事業委員長



全曹青、発信せよ。

電話相談員養成 基礎研修会

受講
レポート

基礎研修会(東京開催)日程

3月1日(1日目)

12:00~12:45 受付

12:45~13:15 開講諷経・オリエンテーション

全曹青の電話相談事業とは何か？

～宗侶にできることを考えよう！～

◆基礎研修① 120分

13:20~13:50 いのちの声に耳を澄ます

～電話相談事業～

13:50~15:20 講演会

「聴く」ということを体験しよう！

◆基礎研修② 120分

15:45~16:15 聴くということ(講義)

16:15~17:45 他己紹介 ～相手のプロフィールを聴いてみよう！～

◆基礎研修③ 90分

18:30~18:50 傾聴することの利点を考えよう！

(実習①)

18:50~20:00 なぜ傾聴なのかを考えよう！

3月2日(2日目)

◆基礎研修④ 90分

8:00~9:30 傾聴ロールプレイ①・振り返り

◆基礎研修⑤ 90分

9:45~11:15 傾聴ロールプレイ②・振り返り

なぜ電話相談なのかを考えよう！

◆基礎研修⑥ 120分

11:30~11:50 電話相談の長所と短所を考えよう！
(実習②)

11:50~12:30 電話相談の特徴を学ぶ

13:00~14:00 全体の振り返り

14:00~14:30 閉講式

今期の基幹事業である「電話相談事業」の基礎研修会が各管区にて2日間の日程で開催されました。研修会は「基礎研修」と「発展研修」の2回に分けて行われます。

電話相談では、相談者の姿が見えないため、相談者の話をしっかりと聴き、理解する力が必要となります。また、相談者との対話には、忍耐力や思考の柔軟さ、正確な知識に基づき素早い判断力なども必要となり、今回の基礎研修会では、2日間の研修を通して「聴くこと」を中心に、研修内容の理解と技術の習得を目指して行われました。

研修では、まず「社会の現状」「相談活動の現状」「宗侶にできること」を学び、全曹青の「いのちの声に耳を澄ます」とはどのような活動なのかを学びました。

次に「聴く(傾聴)」とは何かを学び、傾聴ロールプレイによって「聴く」を体験した後、各々の聴き方、相談の受け方を振り返り、自己理解を深めることを目指しました。

最後に電話相談の長所と短所、特徴を話し合い、なぜ電話相談なのかを学びました。

今回の研修会はその管区でも参加者が多く、宗侶の関心の高さが感じ取れました。参加理由を尋ねてみると、「実際に相談を受けたい」「自分の能力の一つとして、より高めていきたい」といった前向きな考えの方が多く、研修時間が10時間を超える長丁場の中でも、積極的なディスカッションが行われました。(当頁の画像は東京開催のもので)

傾聴ロールプレイ



講師の西村由紀氏

久間会長による開講諷経



北海道管区

● 今後は有志で学習会を企画するなど、カウンセリングの研鑽を積む機会を確保していきたい。



● 電話相談は専門家が行うものと思っていたが、我々はすでに檀務を通しての臨床経験があると聞いて自信が出た。

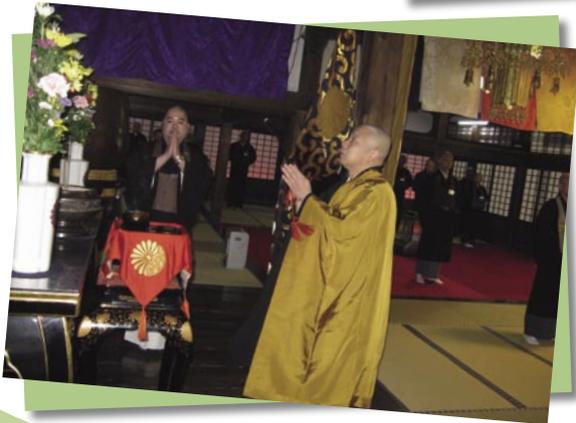


● 最初は義務的な感じで出席したが、研修をこなすうちに興味がわいてきた。

北信越管区

● 僧として取り組む意味をもう少し明確に。

● 長期の継続事業として欲しい。



● これまでの“一方通行の上から目線”ゆえにか? 「直葬」などに見られる僧侶不要論へと発展させた? 僧侶のあり方を改善し、人から“必要とされる僧侶”を育成する上で「傾聴」そのものを、もっと多くの僧侶が日常に取り入れていくべきだと感じました。

東海管区

● 参加の皆さんが思っている事など、発言する機会、それを聴く機会があったことで、ただ聞いている講座と違い、共有できるものが多かったと思います。



● お寺の相談場所ということで、お寺特有の質問等の受け答えの対応の仕方を教えて頂けたらと思います。生き方、霊の話など。

● 問題解決までを視野に入れた研修ができるとよい。



全曹青、発信せよ。

近畿管区



●事業全体にわたるリスクマネジメント法を教えてください。

●臨床心理の研修も必要だと思う。また僧侶が行なうという特性がある以上は、教学研究への取り組みが必須になると思う。

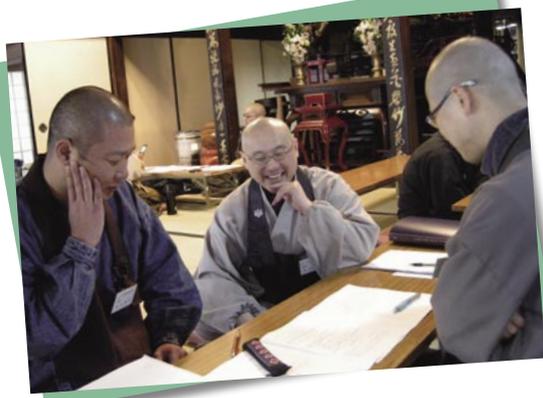


●窓口開設の形態や人数、費用、体制などについて説明してもらいたい。

●言葉に対する注意深さが必要であることを学んだ。

中国管区

●ロールプレイの体験から、相談者が話しやすい環境を作ることが大切だと思った。



●自分の家族の話にも耳を傾けなければと思った。

●基礎研修満了者でないで発展研修を受講できないというシステムを変えてほしい。

●相談者から答えを求められたときの具体的な対応方法を教えてください。



四国管区

●僧侶が相談を受けるからといって、必ずしも法を説いたり導いたりすることが必要な訳ではないということを知ることができた。

●研修時間が足りないと思う。

●電話相談窓口の展開は、全曹青が行なうのか、それとも地域の曹青会が行なうのか、あるいは個人が行なうのか、方向性を示してほしい。





神戸青年仏教徒会 阪神・淡路大震災 15周年慰霊法要



あ

の阪神淡路大震災から、15年を迎える神戸。今年も各地で犠牲者を追悼し、お互いの復興を願う会が行われました。全曹青からは、会長を含め3名が現地へ赴き、神戸市長田区の鷹取カトリック教会で行われた、神戸青年仏教徒会が共催する慰霊法要へ参加いたしました。1月17日の早朝5時46分、地震発生の時刻にあわせ犠牲者を悼み読経、焼香いたしました。気温3度という厳しい寒さの中ではありませんでしたが、震災当時もこの寒さであったとするなら、さぞかし被災された方々はお辛かったであろうと深く感慨を覚えました。

同日、兵庫県第二宗務所青年会(以下、兵二青年会)では、長田区内にある御蔵公園での慰霊法要へ随喜しております。朝5時から自治会にて、夕方5時からは「まちコミユニケーション」にて行われています。兵二青年会では毎年参加させていただき、当時のお話や現在のご苦労などについてお聞きしております。

ここには地元住民主導のもと、兵二青年会も協力し建てられたモニュメントがあります。これは当時菅原市場周辺にて炊き出し、慰霊法要を行っていたご縁が現在も続いています。震災から15年が経ち、以前から住んでいた人は減り、移住される方も多いため、震災体験者と新しい住民の方との意識の差は大きく、それをどう縮めていき、震災をどう語り継ぐかということが大きな課題だそうです。兵二青年会として何かお手伝いができるのではないかと、来年17回忌を迎えるにあたり考えてみたいのです。

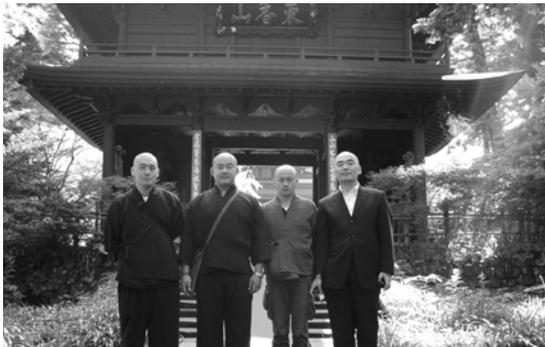
総合企画委員 安達瑞樹

(兵庫県第二宗務所青年会)

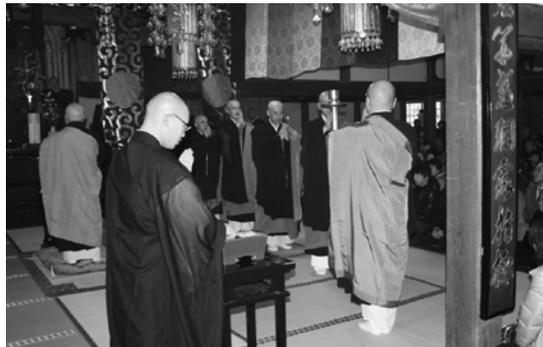
委員会、只今活動中

全曹青、発信せよ。

法式委員会



▲DVD『出版焼香法』の撮影で金沢市・大乘寺に拝登した法式委員諸師



▲大乘寺の本伝供

＊『洞上僧堂清規』現代的改訂事業は、『曹洞宗全書』版の『僧堂清規』をPCへ打ち込む作業が完了し今後編集作業に入ります。また、『二師侍者公務帖』加筆再版事業についても、初版関係諸師の方々からの資料収集が完了し編集のみとなっています。『出班焼香法』DVD頒布事業については、昨年10月の大乘寺さまに続き、11月16・17日に愛知県日泰寺専門僧堂において十八拜法要を撮影しました。現在業者から編集された映像が届き、各委員の確認をしながら校正作業を行い、合わせて追加映像の収録を行う予定です。

執行部

＊3月4、5日の第7回の執行部会と理事会・特別委員会が21年度最後の開催となりました。基幹事業をはじめ、各委員会事業等の振り返りと共に次年度の展望を見据えた協議を致しました。4月18、19日の第1回の執行部会と理事会・特別委員会が22年度最初の開催となり、年度末監査、次年度活動計画案、災害対策等について慎重審議し、5月12、13日の定期評議員会、定期総会の上程に向けて会務執行致しました。

総合企画

＊平成22年度花まつりキャンペーンにつきましては、全国の御寺院さまよりたくさんのお申し込みをいただきまして、誠にありがとうございました。想像を越える大反響に、委員会一同驚嘆しております。あらゆる場所、世代において花まつりを身近に感じていただく時間が増えることを切に願っております。なお、ご投函いただきました塗り絵につきましては、次号にて経過をご報告させていただきます。

広報委員会

＊昨年の12月17日(木)に京都で広報会議を開催しました。ホームページ『般若』は長く期を跨いで階層化してきた情報データのため、管理運営が複雑になってまいりました。現在、そのシステムの抜本的な見直しを検討しており、会議でも意見が交わされました。

＊年明けより『sousei on web』内で、出向者によるリレーブログが開設されました。毎週日曜日更新で出向者のリアルボイスをお届けしています。

『茨城県行事指南』



「行持指南」の冊子につきましては、先輩諸老師が発行されました「差定帖」を手本にさせていただき、新たにいくつかの法要を掲載し「晋山編」「喪儀編」「諸行持編」と三冊に編纂致しました。



写真上：「茨城県行持指南」に同梱されているDVD及びCD教材
写真左：「茨城県行持指南」に同梱されている「晋山編」「喪儀編」「諸行持編」「得度式」

●申し込みは下記まで

HPアドレス <http://ibasou.que.ne.jp/>
HPからも申し込みます。

メール tanba-ken@fa2.so-net.ne.jp
09052027786@docomo.ne.jp

住所／〒317-0055 茨城県日立市宮田町3584-4
本山寺 丹波謙雄
TEL／0294-21-8203

禅文化学林・総会告知

全国曹洞宗青年会・禅文化学林 併催
曹洞宗静岡県第三同志会・創設四十周年記念大会告知

来る平成22年6月11日(金・友引)、静岡第三同志会創設四十周年を迎え、全国曹洞宗青年会・禅文化学林を招致いたしまして『光明～輝きを求めて～』のテーマを下に記念事業を開催致したく存じます。

- 日時／平成22年6月11日(金・友引) 午後2時より
- 会場／ヤマハリゾート つま恋
静岡県掛川市満水2000
- 参加予定人数／300名
- 内容／受付 午後1時
記念法要 午後2時
仏教講座 午後3時
記念式典 午後4時30分
記念講演 午後5時
懇親会 午後6時30分
- 詳細／◎禅文化学林
 - 一、記念法要…大般若祈祷会
 - 一、仏教講座
「お経の功德～なぜお経をよむのか～」
講師：永平寺名古屋別院・監院
花井寺住職・井上義臣老師
- ◎曹洞宗静岡県第三同志会 創設四十周年記念大会
 - 一、記念講演
「期待される僧侶像」
講師：駒沢大学・総長 正林寺住職・田中良昭老師

皆様には、何卒、深い御理解と御法愛を賜りまして、一人でも多くのご参加を御願い致しますと共に、この大会が無事円成できますよう、御協力の程を伏して御願い申し上げます。
*参加申込方法等の詳細は、近日中に御案内させていただきたく存じます。不明な点等ございましたら、事務局までご連絡いただきたく存じます。宜しく御願い致します。

大会事務局
〒439-0006 静岡県菊川市堀之内461
報恩寺内 杉江知恭
TEL: 0537-35-2354

平成22年度 全国曹洞宗青年会 定期総会開催のご案内

- 日時／平成22年5月12日(水)～13日(木)
- 場所／東京都港区芝2丁目5-2 曹洞宗檀信徒会館
- プログラム／◎12日 9時～：理事会 研修道場 14時～：定期評議委員会 3階 蘭の間
18時～：懇親会
◎13日 10時～：中央研修会 3階 桜の間 13時～：定期総会

中央研修会 「いのちの声に耳を澄ませば～『観世ふおん』に届いた声を検討する～」
出席のお申し込みにつきましては、各所属青年会の評議員さま宛てに所定の用紙を送付致しております。(※切済み)

告知!



●●●●●梅花流法具販売指定店●●●●●
法衣・袈裟・打敷・寺院荘厳具・京仏壇・京仏具

株式会社 安藤

京都市東山区古門前通花見小路東入(☎605-0081)

☎0120-29-8161 法衣部
☎0120-29-8165 仏具部
☎0120-19-8168 贈答品部

東京店 / 東京都港区芝2-15-2(☎105-0014)
☎0120-3232-09
福岡店 / 福岡市博多区上呉服町12-7(☎812-0036)
☎0120-2143-22

中堅気鋭の学究僧による新訂版

新編『曹洞宗実践叢書』 全10巻
【監修 川口高風】

◎責任編者 尾崎正善 秋 央文 鈴木文明 松永寛道 菅原研洲 桐野好覚 金子宗元 小杉瑞穂 菅原論貴 川口高裕

◎巻編成
第1巻 基本作法編
第2巻 法堂及び僧堂の進退・仏祖忌編
第3巻 声明・講式編 付・DVD版声明
第4巻 尊宿葬儀法・授戒会編
第5巻 伝法・室中・特別法要編
第6巻 宗典・祖録注解編
第7巻 經典注解編
第8巻 教化伝道編
第9巻 寺院住職学編
第10巻 全巻目次・索引

◆第1巻 発売中!!◆

◆B6判 上製クロス装
各巻平均460頁 函入
◆価 格【全10巻セット】
157,500円(税込)

お申込・お問合せ先
株式会社 同朋舎メディアプラン
☎03-5216-1116
〒101-0061 東京都千代田区三崎町2-22-18
TK-WESTビル2号館5階
FAX 番号 03-5276-0837

兵二曹青と震災

の阪神淡路大震災の翌年に発会いたしました。

甚大な被害をうけた神戸市内では、各地から駆けつけた大勢のボランティアによって救援活動がすすめられており、宗務所でもこの事態を重く受け止め、支援の方法が検討されました。当時、宗務所

私たち兵庫県第二宗務所青年会(以下兵二青年会)は、平成7(1995)年

管内では北部の但馬曹青、中部の円通会、南部の曹友会の三つの青年会がそれぞれで活動しておりましたが、互いに交流することはほとんどなく、この時初めて三団体が行動を共にすることとなりました。現地ではまず長田区にある宮川小学校で炊き出しを開始。建物の倒壊の恐れがあるということで、場所を丸山小学校に移し、引き続き活動を行いました。

ちは、不便さを感じるようになりました。各団体との情報の共有や交流において兵二宗務所の青年会として、全曹青と共に活動することがよいのではと考え、話し合いを重ねた結果、平成8(1996)年、三つの青年会とは別に兵二青年会として会員を募り活動を開始いたしました。



兵庫県第二宗務所青年会

発 足	平成8年
会 長	片瀬道昭
副会長	米原宗浩
事務局長	安達瑞樹
会 員 数	29名

御蔵地区のモニュメント

震災後、のちの兵二青年会としては犠牲者を悼み、全曹青と共に大練忌、卒

哭忌法要を勤めて参りました。地元の復興が進むにつれて、住民の間で「いつまでも仮の祭壇ではどうか」という声が自然と上がり、市の区画整理による公園整備も相まって住民の呼びかけにより、慰霊碑が建立されることとなりました。多くの人々や企業と共に、

兵二青年会も募金活動に協力。宮崎奕保不老閣下下に「鎮魂」の揮毫を頂戴し、七回忌法要に合わせ除幕式が挙行されました。

毎年1月17日、この碑前において、住民の方々と共に慰霊法要を行っております。現在、町は当時の焼けた電柱や楠などを残す程度で、震災当時の面影も少なくなりました。また、被災された住民も移り住むなどで減り、次の世代へ伝えていくという事が大きな課題となっております。このモニュメン

トが訴えるもの。あの時、この地で多くの人々が亡くなったこと。そして、人々が共に助け合い、慰め合った事実を、私たちが青年会員は胸に刻み、これからも活動して参ります。



毎年の神戸市長田区御蔵地区での慰霊法要



震災時の炊き出しボランティア





平成21年佐用町の災害ボランティア



平成16年豊岡市での災害ボランティア

そうせいサポーターズより

「応無所住、而生其心」気は大・朗にして何事にも拘わらない時、どんなことでも成し遂げてゆく最上無上の健やかな心が生まれる。この思いを抱き「古ヲ裂キ今ヲ破ル」の新旧に捉われず今大切なものを選ぶ精神で大活躍の全国曹洞宗青年会各位には賛辞と感謝願志を申し上げます。昭和五十一年十一月発会されました当時の先人達の「苦勞・情熱・信念は固り知れませんが、今も尊敬と敬慕の念を以て継承され益々の発展拡充が期待されています。今後更に活動に心血を注いでいただき、混沌とした世相に御仏の光明を掲げ、禅風の高揚と共に宗門信仰へのいざないとしての力と、本来寺院が持つ三機能「学び・癒し・楽しみ」の力が発揮される事を願って止みません。



兵庫県第二宗務所 所長 渡邊 俊明

青年会設立から15年目を迎え、現在29名で活動しております。青年会の活動として、青年僧の本分として欠かすことのできない「研鑽」、会員同士が和合僧を持つて長く活動していくための「親睦」も大切な活動ですが、特に設立のきっかけとなった阪神淡路大震災に代表される災害ボランティアを含む「奉仕」活動に力を入れていきます。

被災地でのボランティア活動の中で、一人の力ではできないことも皆の力が集まれば実行達成することができると痛感しました。また、毎年篠山市で開催される「全国車いすマラソン」や豊岡市の児童福祉施設の子供たちとの交流を図る「豊岡ONEらいふ」へのボランティア参加も続けております。社会の青年僧に対する要請を思慮する時、青年会として、個人として、また現代に生きる僧侶として、

現在の活動

片瀬道昭 会長



した阪神淡路大震災、平成16年の台風23号による豊岡市の水害、昨年の佐用町での水害等、甚大な被害を出した災害が多数発生しました。



「豊岡ONEらいふ」での交流

てどのように社会と関わっていくかということが大変重要になると思っています。今後も青年会活動を通して、未熟な私たちが多方面と接点を持ちながら一人ひとりが色々な場所で自ら行動を起こしていく機縁になればと考えています。

大震災を契機に、三本の矢が一つになってより一層の活動をしている青年会を誇らしく、また、寂しい一面も覗えつつ、見守っております。ただ、お願いしておきたいのは、「指示待ち症候群」にはならないでいただきたい。これは、当青年会に限らず、各県の青年会にも言っておきたいです。それと、「継続」です。続ける事により、主軸である「根」がしっかりとてきます。根が腰を降ろし幹が太くなっていけば、新しい枝や新しい芽がついてくるはず。年輪はもう十五です。いや、まだ十五なんです。今後のより一層のご活躍を期待します。



初代会長 平岩浩文

寺院用仏具・仏壇、修理・製造
株式会社 鳳龍堂

〒963-8061 郡山市富久山町福原字福原62
フリーダイヤル 0120-228602
TEL 024 (922) 8602
FAX 024 (939) 1673
定休日・毎週日曜日 ●営業時間 AM9:00~PM6:00



毎年の寒行托鉢

164 城慶寺 様
167 円久寺 様
120 極楽寺 様
131 久昌寺 様
23 慶正寺 様
32 清盛寺 様

●福岡県

16 喜久寺 様
20 宝林寺 様
102 能満寺 様
103 天聖寺 様
110 松山寺 様
67 建昌寺 様
158 報恩寺 様

●大分県

8 豊音寺 様
93 神光寺 様
166 正興寺 様
175 羅漢寺 様

●長崎県第1

26 鏡円寺 様
46 洞禅寺 様
78 宝泉寺 様

●長崎県第3

101 南明寺 様

●佐賀県

213 瑞光寺 様

●熊本県第1

8 雲巖寺 様

●熊本県第2

78 地藏院 様

●宮崎県

6 祐国寺 様
22 大雄寺 様

●鹿児島県

3 大中寺 様
18 光明禅寺 様

●長野県第1

6 永谷寺 様
587 観音庵 様
62 良松寺 様
119 龍洞院 様
121 浄光庵 様

123 真蔵寺 様
158 満泉寺 様
187 照明寺 様
227 岩松院 様
243 広徳寺 様
288 正安寺 様
300 威徳院 様
306 城光院 様

●長野県第2

595 検校庵 様
414 自性院 様
559 東昌寺 様
419 宗徳寺 様
422 守桂寺 様
603 長性院 様
480 法音寺 様
483 桃源院 様
544 一心寺 様

●福井県

60 興禅寺 様
62 正圓寺 様
269 御誕生寺 様
107 養徳庵 様
130 宗栄寺 様
145 瑞林寺 様
161 久永寺 様
218 常福寺 様
265 西方寺 様

●石川県

135 水月院 様
50 全昌寺 様
75 大覚寺 様
79 東光寺 様

●富山県

83 永久寺 様
32 全龍寺 様
26 徳城寺 様
206 慈眼寺 様
46 祇樹寺 様
167 観音寺 様
114 光臺寺 様

●新潟県第1

331 東岸寺 様
364 永明寺 様
343 慈眼寺 様
346 繁慶寺 様
411 普濟寺 様
728 妙喜寺 様

453 龍沢寺 様
477 龍泉院 様
496 長楽寺 様
503 龍源寺 様
382 光照寺 様
390 東禅寺 様
441 正応寺 様
311 大慈寺 様

●新潟県第3

580 賞泉寺 様
535 普光寺 様
558 周広院 様

●新潟県第4

1 龍雲寺 様
9 東陽寺 様
814 地藏院 様
19 林照寺 様
734 葉王寺 様
44 百観音院 様
70 永谷寺 様
85 林昌寺 様
86 頼勝寺 様
733 光明寺 様
112 常安寺 様
189 東泉寺 様
219 東牧寺 様
228 雲泉寺 様
230 大雄寺 様
283 耕太寺 様

●福島県

2 長楽寺 様
7 清水寺 様
8 白山寺 様
9 宝積寺 様
11 宝勝寺 様
14 円通寺 様
36 大正寺 様
41 石雲寺 様
43 東禅寺 様
70 安禅寺 様
93 長光寺 様
101 成林寺 様
104 成願寺 様
107 岳林寺 様
110 龍徳寺 様
111 普光寺 様
121 長泉寺 様
146 保福寺 様
153 長壽院 様
157 万持寺 様

178 広度寺 様
214 満円寺 様
226 常隆寺 様
227 龍台寺 様
254 同慶寺 様
258 龍昌寺 様
265 法輪寺 様
274 龍門寺 様
285 医王寺 様
289 弘源寺 様
297 蘭秀寺 様
299 一山寺 様
320 蔵円寺 様
343 西勝寺 様
350 久昌寺 様
372 恵倫寺 様
399 法界寺 様

●宮城県

7 保寿寺 様
88 耕田寺 様
29 秀林寺 様
100 東岩寺 様
141 自照院 様
270 瀧澤寺 様
292 永巖寺 様
295 松巖寺 様
296 龍洞院 様
406 松岩寺 様
432 耕田寺 様
69 見松寺 様
71 光西寺 様

●岩手県

6 永泉寺 様
12 沼福寺 様
17 清水寺 様
23 清雲院 様
25 宝積寺 様
28 聖福寺 様
44 江岸寺 様
58 長福寺 様
65 仁昌寺 様
75 宗青寺 様
120 菅生院 様
158 願成寺 様
186 大光寺 様
232 龍昌寺 様
242 大慈寺 様
247 正福寺 様
252 柳玄寺 様

●青森県

19 宗徳寺 様
26 安盛寺 様
27 蘭庭院 様
45 全龍寺 様
98 東光寺 様
110 長昌寺 様
112 法蓮寺 様
148 報效寺 様
185 観音寺 様
79 法光寺 様

●山形県第1

5 光禅寺 様
55 新龍寺 様
208 普門寺 様
217 圓應寺 様
224 長泉寺 様
238 西来院 様

●山形県第2

290 永雲寺 様
305 玉林寺 様
315 永泉寺 様
345 光岳寺 様
365 林泉寺 様
380 正円寺 様
401 長慶寺 様

●山形県第3

468 宗伝寺 様
491 宝円寺 様
502 楞巖院 様
534 東福寺 様
521 大川寺 様
611 妙楽院 様
641 宝泉寺 様
687 寶泉寺 様
742 龍澤寺 様

●秋田県

22 源正寺 様
47 東傳寺 様
61 鷲林寺 様
85 宝円寺 様
88 龍源寺 様
91 瑞光寺 様
95 蔵昌寺 様
111 西方寺 様
136 長谷寺 様
152 善龍寺 様

174 満福寺 様
179 長泉寺 様
181 黄龍寺 様
192 善福寺 様
252 長泉寺 様
258 鳳来院 様
260 松庵寺 様
265 倫勝寺 様
279 宝昌寺 様
295 太平寺 様
319 長年寺 様
321 鏡得寺 様
322 大圓寺 様
68 長泉寺 様
71 相川寺 様
104 普門院 様
26 洞泉寺 様
38 眺江寺 様
128 耕伝寺 様
341 金浦寺 様
166 久昌寺 様
202 重福寺 様
290 樹温寺 様

●北海道第1

14 広福寺 様
45 延命寺 様
35 法隆寺 様
43 大円寺 様
69 大林寺 様
79 徳源寺 様
87 龍松寺 様
94 曹源寺 様
96 観音寺 様
468 養福寺 様
484 禅福寺 様
511 禅林寺 様

●北海道第2

120 大雄寺 様
165 玉雲寺 様
180 曹光寺 様
317 密伝寺 様
455 玉法寺 様
181 永祥寺 様
248 総泉寺 様
239 禅昌寺 様

●北海道第3

141 正法寺 様
229 東陽寺 様

両大本山御用達
梅花流法具販売指定店

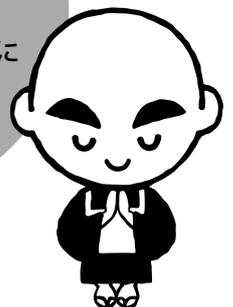
法衣・装束・荘厳・神仏具・贈答用記念品

株式会社 梅金商店

(全国曹洞宗法衣同業会会員)

〈本 社〉〒460-0011 名古屋市中区大須三丁目39番33号
(大須交差点東北側)
TEL(052)241-0901(代表) FAX(052)241-1904

全国曹洞宗青年会の
活動は皆様の賛助費に
支えられております。
この度もご協力頂き誠に
有難うございました。



賛助費浄納御芳名簿

平成21年 平成22年
11/1 ~ 2/28

●東京都

- 17 龍澤寺 様
- 25 慈眼院 様
- 376 東照寺 様
- 30 豪徳寺 様
- 79 保善寺 様
- 81 長光寺 様
- 110 松林寺 様
- 188 真正寺 様
- 232 薬師寺 様
- 395 道了寺 様
- 258 東光寺 様
- 277 東源寺 様
- 389 立川寺 様
- 309 天寧寺 様
- 311 妙光院 様
- 312 光明寺 様
- 313 聞修院 様
- 89 淨牧院 様
- 大室英暁 様
- 駒澤大学 様
- 高等学校 様

●神奈川県第1

- 204 紫雲寺 様
- 268 米倉寺 様
- 285 泉秋寺 様
- 369 常泉寺 様

●神奈川県第2

- 80 福泉寺 様
- 131 乗福寺 様
- 147 宗裕寺 様
- 150 定方寺 様
- 168 源養寺 様

●埼玉県第1

- 6 法性寺 様
- 38 高城寺 様
- 75 長松寺 様
- 115 九品寺 様
- 116 梅田寺 様
- 122 天王院 様
- 166 全龍寺 様
- 190 廣徳院 様
- 404 満讀寺 様
- 426 昌楽寺 様
- 434 安養院 様
- 436 陽雲寺 様

●埼玉県第2

- 248 長泉寺 様
- 256 豊泉寺 様

- 283 長泉寺 様
- 271 龍泉寺 様

●群馬県

- 4 隆興寺 様
- 124 成孝院 様
- 281 永隣寺 様
- 308 仁叟寺 様
- 311 大通寺 様
- 194 善宗寺 様
- 20 竹芳寺 様

●栃木県

- 4 林松寺 様
- 53 大中寺 様
- 57 満福寺 様
- 66 芳全寺 様
- 106 實相院 様
- 125 長興寺 様
- 92 泉溪寺 様

●茨城県

- 1 祇園寺 様
- 2 天徳寺 様
- 13 龍泉院 様
- 76 雲集寺 様
- 77 常春寺 様
- 113 常晃寺 様
- 197 長龍寺 様
- 182 龍心寺 様

●千葉県

- 2 宗胤寺 様
- 3 宝成寺 様
- 7 満蔵寺 様
- 8 重俊院 様
- 12 高根寺 様
- 60 東伝院 様
- 90 等覚寺 様
- 109 長泉寺 様
- 95 寶應寺 様
- 101 医王院 様
- 159 宝聚院 様
- 200 善福寺 様
- 272 永泉寺 様
- 10 流山寺 様

●山梨県

- 17 心月院 様
- 115 海潮院 様
- 133 少林寺 様
- 162 法久寺 様

●静岡県第1

- 6 瑞龍寺 様
- 9 然正院 様
- 45 常安寺 様
- 77 龍泉院 様
- 110 大慈悲院 様
- 126 一乗寺 様
- 180 秀源寺 様
- 182 大通寺 様
- 208 延命寺 様
- 391 十輪寺 様
- 393 弘徳院 様
- 460 宗乗寺 様
- 495 普門院 様
- 556 信香院 様
- 214 新豊院 様
- 216 泉竜寺 様

●静岡県第2

- 228 耕月寺 様
- 230 宗徳院 様
- 361 広台寺 様
- 362 福泉寺 様

●静岡県第3

- 958 興徳寺 様
- 988 福王寺 様
- 1248 圓光寺 様
- 1273 東林寺 様
- 832 善勝寺 様
- 585 成因寺 様
- 588 泰善寺 様
- 589 永竜寺 様

●静岡県第4

- 1097 大聖寺 様
- 1104 見海院 様

●愛知県第1

- 17 光明院 様
- 109 善昌寺 様
- 70 慈濟寺 様
- 1229 玉林寺 様
- 91 法持寺 様
- 101 成福寺 様
- 1164 弘禅寺 様
- 354 広濟寺 様
- 338 長養院 様
- 292 高雲寺 様
- 313 長松寺 様
- 296 大吉寺 様
- 297 清凉寺 様
- 229 宝泉寺 様

- 133 瑞泉寺 様
- 605 天徳寺 様
- 606 向陽寺 様
- 625 宝積寺 様
- 629 神龍寺 様
- 635 永澤寺 様
- 675 妙昌寺 様

●愛知県第2

- 684 花井寺 様
- 814 正林寺 様
- 816 松音寺 様
- 819 江福院 様
- 823 竜源院 様
- 872 傳法寺 様
- 962 智蔵院 様
- 972 桂昌院 様

●愛知県第3

- 411 福田寺 様
- 428 寶珠院 様
- 431 報恩寺 様
- 480 洞雲院 様
- 484 興昌寺 様
- 1235 太平寺 様
- 557 楞嚴寺 様
- 385 東昌寺 様

●岐阜県

- 219 勝林寺 様
- 240 林陽寺 様
- 38 最勝寺 様
- 51 天徳寺 様
- 74 観修寺 様
- 113 安養寺 様
- 127 増福寺 様
- 162 清楽寺 様
- 15 東林寺 様

●三重県第1

- 24 一心院 様
- 31 永源寺 様
- 32 慈眼寺 様
- 37 四天王寺 様
- 59 長楽寺 様
- 83 涼泉寺 様
- 144 福源寺 様
- 166 陽光寺 様
- 181 観音寺 様
- 183 光徳寺 様
- 188 廣泰寺 様
- 266 江月寺 様
- 269 大蓮寺 様

- 276 地藏院 様
- 304 常福寺 様

●滋賀県

- 35 慈眼院 様
- 143 永寿院 様

●京都府

- 46 栄春寺 様
- 73 春現寺 様
- 161 禅福寺 様
- 236 善光寺 様
- 355 龍猷寺 様
- 367 福昌寺 様
- 389 万福寺 様

●大阪府

- 5 臨南寺 様
- 38 慈願寺 様
- 40 伊勢寺 様
- 50 東光院 様
- 69 永興寺 様
- 78 桂林寺 様
- 88 正俊寺 様
- 98 吉祥院 様
- 109 法蔵寺 様

●奈良県

- 5 興大寺 様
- 26 蔵心寺 様

●和歌山県

- 52 宗応寺 様

●兵庫県第1

- 9 三宝院 様
- 287 向栄寺 様
- 302 月照寺 様
- 338 勝龍寺 様
- 340 永春寺 様
- 341 常厳寺 様
- 375 金剛寺 様
- 393 安養寺 様
- 331 瑞応寺 様

●兵庫県第2

- 135 弘誓寺 様
- 149 瑞光寺 様
- 211 薬師寺 様
- 167 善福寺 様
- 173 瑞雲寺 様
- 228 豊楽寺 様
- 270 臨川寺 様

●岡山県

- 86 源樹寺 様
- 87 桂巖寺 様
- 131 済渡寺 様
- 157 金蔵寺 様
- 171 極楽寺 様

●広島県

- 32 龍泉寺 様
- 46 雙照院 様
- 67 西福寺 様
- 34 吉祥寺 様
- 63 長福寺 様
- 179 神宮寺 様
- 167 正安寺 様
- 175 雲龍寺 様

●山口県

- 20 広沢寺 様
- 22 皇徳寺 様
- 72 真福寺 様
- 86 興元寺 様
- 190 亨徳寺 様
- 172 広福寺 様

●鳥取県

- 4 大義寺 様
- 32 吉成寺 様
- 48 謙伝寺 様
- 58 正寿寺 様
- 133 妙元寺 様
- 154 瑞仙寺 様
- 159 大祥寺 様
- 163 雲光寺 様
- 182 東光寺 様
- 195 普音寺 様

●島根県第2

- 5 地福寺 様
- 50 妙岩寺 様
- 63 龍覚寺 様
- 80 長寿寺 様
- 96 瑞龍院 様
- 111 万蔵寺 様
- 169 長安寺 様
- 43 福正寺 様

●高知県

- 4 吉祥寺 様

●愛媛県

- 146 興雲寺 様
- 157 明光寺 様

と き た び こころの時代にこころの旅を

国内団参・海外仏跡巡拝の事なら経験豊かなビーエス観光へお申し付け下さい。

ビーエス観光グループ

今号より、独身の広報委員が「寺院における家庭生活」をテーマに独自の視点からレポートし、自身の婚活への糧としていきます。

家族で拓く、寺檀の大地

全曹青広報副委員長 倉島隆行(三重第一曹青)

北

北海道に位置する当寺の特徴としては、他の地域に比べて行事が多いことが挙げられるかもしれませんが、少なくとも月に一度は何らかの法要を行っておりますから」

遙か北の空の下から、受話器を通して岩井淳一住職の穏やかなお声が届きます。昨年の私の晋山式以来、先輩諸老師から「早く嫁を迎えろ」とのご忠告をいただく機会が増えました。山内盛事を無事終えた今、自分自身の「これから」を夢想して、脳裏にまず浮かんだのが拈華山菩提寺のことでした。北海道の札幌市に近い空知の南部に位置し、千歳川と夕張川に囲まれた南幌町にある同寺は私が住職を勤める塔世山四天王寺(三重県津市)の末寺にあたり縁深く、温暖な伊勢の国に暮らす自分には想像もつかぬ北国の寺院の有り様に、前々から関心を抱いております。厳しい大地に曹洞宗の教えを根付かされた、ご住職とご寺族の生の声を伺いたいと思いがあつたのです。

明治2年の廢藩置県によって、蝦夷地から北海道へと改称されて以降、多くの開拓使の努力によって、広大な大地の上に人の営みが築かれて参りました。菩提寺創建の契機となった伊勢開拓団が海を渡ったのは明治27年。約三十家族からなる開拓団には、当時の四天王寺住職・鈴木天山禪師(1870~1941 總持寺独住十世・永平寺六十九世)の任を受けた旭地了寛尼僧が同行しておられました。厳しい冬や頻発する洪水、熊の脅威の中、了寛師の粗衣粗食に耐えながらの托鉢によって、菩提寺の礎となる草庵が建立されたのです。菩提寺の歴史は即ち南幌町の歴史でもあり、創建の逸話も同寺ではほんの1世紀前の出来事に過ぎません。創建から長い歲月

を経た本州の寺院と異なり、境内の隅々から地域の人々の心の中にまで、歴代住職の苦勞や思いが今なお強く息づいているのです。

「この地に人が定住するまでには厳しい試練が幾度もありました。寺は開祖の跡を継いだ二世・原天降老師、三世・吉村諦真老師という気骨ある禅僧に恵まれましたが、その後は生活のあまりの貧しさに耐えられず、村を後にする住職候補も多かった



と伝われます。私の祖父である四世・岩井達道の代になって、初めて住職に夫妻を恵まれたと村民に大いに喜ばれました。四世寺族・岩井スエは村の子供たちを預かる託児所を開設し、病院勤務経験を活かすなどして寺と地域の発展を助けてきました。そもそも当寺は開祖から尼僧であり、元来女性の働きが大きいのです」

そう言って屈託無く笑われる岩井住職。共に土

地で汗を流し、育った作物を分け合った関係があるからこそ、現在の菩提寺と地域の人々との強い結びつきがあるのでしょう。

開祖から数えて六世とされる岩井住職が、駒澤大学で共に学ばれた勝江さんを伴侶に迎えられるのは24歳の時。それまでお寺というものに縁の無かった夫人にとつて、寺族としての生活など思いもよらなかったであろうことは想像に難くありません。

「こちらに来るまでは、お寺のお勤めといっても自分が何をすればよいのか分かりませんでした。お檀家さんへ細やかに気を配る義母の背を見て、自分もこうあらねばならないのだと感じたのを覚えております」

菩提寺では昭和27年に四世・達道老師が遷化されたおり、学業中であつた五世・岩井清淳師が戻られたといえます。こうしたご住職の家族ぐるみでの尽力が、どれほど地域に安寧を与えてきたことでしょうか。誠に寺院が僧籍にある者だけで守られるものでないことを物語るお話だと思えます。

「お寺に世間話に来るのが楽しいと言つてくださる方もみえます。私も縁あつてこちらに来て20年近くになりますので、今はもう“自分のお寺”という気持ちになつております」

電話の向こうの勝江さんの声をお聞きし、観音さまのように人々の話を受け止められるお姿が目蓋に浮かびました。菩提寺さまに寺族のこれからについて思いを巡らす機会をいただけたことに感謝すると共に、私自身にも良き縁が訪れることへの願いが、一層募りました。

お寺暮らしの ライフデザイン ①



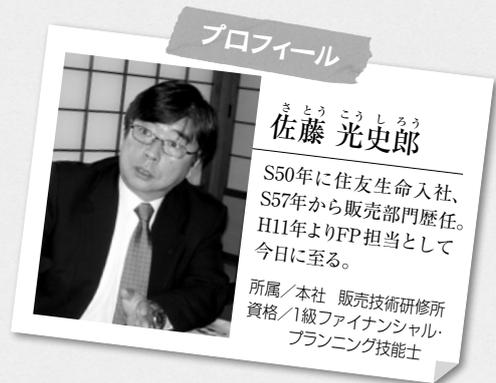
みなさんはお寺での暮らしにどんな期待と不安を持って「ライフデザイン」されていますか？

この連載では、全曹青会員の描く「ライフデザイン」を紹介していきます。

第1回目は、高木副会長ご家族と
フィナンシャルプランナーの佐藤さんが、
「お寺での保障」について一緒に考えます。

CASE #1 愛媛県西条市・興雲寺様

山内構成 高木一晃師(住職 全曹青副会長)
ひかるさん(寺族) 子ども(女8歳、男4歳、女1歳)



●一晃 一家でこのお寺に来て3年になります。所謂世襲ではなく、前のご住職が退董され、その後任として20代目の住職になりました。住職になれば当然に代表役員となります(宗憲第26条第1項ほか)。経営の専門知識を学んだことのない私が寺院の代表として、この歴史あるお寺を管理運営していく重責を日々感じております。特に今心配に思うのは、お寺を妻と私で切り盛りしている現状で、私に万が一のことがあった時のことなんです。

■佐藤 奥様はどうですか？今ご住職が仰った不安については。

●ひかる そうですね…。住職である主人がお寺にいないとすれば、私たちがお寺にいる理由がないですね。

●一晃 曹洞宗では「特定代務者」という制度(寺院規定第15条ほか)があって、一定の資格を得れば、住職に万が一の時には寺院を代表することができます。しかし、寺族は僧侶としての儀礼的なことはできませんので、僧侶がいなくてお寺は成り立っていきません。

■佐藤 今、奥様のお話を聞いて身につまされました。ご住職が背負っている「お寺を護る」という重責を、奥様もお感じになりながらも、ご自身の立場に不安をお持ちなのですね。例えば、一般的な企業では業務災害に対する保障制度がありますが、そういった保障についてはどうですか？



左から、ひかるさん、次女・しおんちゃん、高木副会長

●一晃 お寺(法人)で社会保険に入っています。社会保険(厚生年金)の方が国民健康保険や国民年金より保障が手厚いですし、生活習慣病予防検診(被扶養者の場合は特定健康診査)が非常に安いので、毎年定期検診を受けております。

●ひかる 「主人もまだ若いから大丈夫だろう」とも思うんですけれども、本当に、いつ何が起きるか分からないですから。

●一晃 息子が「どうしても他の道に進みたい」と言ったり、このお寺の後継者として任せられないと判断した場合は、「息子だから」という理由だけで継がせるつもりはないんです。私は、歴代の御住職や檀信徒の皆様やそのご先祖様からこのお寺を預かっているだけです。後継者が息子でない場合は、速やかにここ(興雲寺)を出ることになるでしょう。

■佐藤 私たちが普段お取り引きさせて頂いている中小企業様の場合、私たちの「お役立ち」のコンサルティングとしては、①リスクマネジメント、②事業承継、あとは③退職金準備、この3つが重要です。実は、最近は宗教法人でも退職金規定を導入されているところが増えているですよ。

●ひかる そうなんですか？

■佐藤 私たちがお寺さまにお勧めさせて頂いているのは、いわゆる終身保険です。例えば、今までのお寺さまの銀行積み立て分、この中でもし毎月でも幾許かを退職積立金に振り替えて頂ければ、お寺さまの持っている資産自体は減りません。ご住職自身に世襲相続への思いが強いと「そのような保障は必要ない」ともなりますが、お子さまが継がないと分かってから退職金を準備しても遅いですよね。また、ご住職の交代に伴って、ご家族も含めた転居が必要になる場合は、その支度金にもなります。お寺の経理は「お布施」という前提を含みますから、世俗的な保険の適用が好まれないことも理解しています。ただ、例えば檀家さまが300軒あったとしたら、ご家族を含めて大体1200人くらいの生活圏の真ん中でお寺は機能されています。お寺自体の機能が滞ると、その生活圏に影響が出ますよね。退職金規定は、そういう社会的な側面の備えにもなるのではないのでしょうか。

山の麓にある、 縁生の家 (前編)



あまんの ダイアログ 10

おとしの冬「入所者のターミナルケアの振り返りとメモリアルカンファレンス」の講師に招かれ始めてその施設へ足を運んだ。施設の名は『穂高悠生寮』。そこで生活する人々は、寮の名前の通り、安曇野穂高の大自然の中で悠々と生きておられた。しかし隣接する自治体の施設だというのに、私の近所でもその施設の存在を知らない人は多い。「バリアフリー」を提唱する社会の嘘を垣間見た思いがした。

「二十億光年の孤独」という谷川俊太郎氏の詩をご存知だろう

か？詩の中の「万有人力とは引き合う孤独の力である 宇宙はひびく それ故みんなは求め合う」この一節が、入所者の方々の生活・関係のあり方をずばりと言っているように思う。現代は「無縁社会」と言われ「孤独死」が増加している。しかし「引き合う孤独の力」があり、そこに縁が生まれている場所がある。インタビューを通してそれを読み解いていただけたら幸甚に思う。

あまん 恵道



きたざわ かつみ
北澤 克巳

60歳。インタビュー当時(2010年2月)は『穂高悠生寮』施設長。障がい者のみなさんとの関わりをライフワークにしたいため、定年後は施設からより地域に近い場所で、関わりを持ち始めました。若いみなさんと汗と感謝の日々です。



いじま けい どう
飯島 恵道

長野県松本生まれ。尼寺育ち。看護師としての経験を生かし、医療と宗教の領域を横断する「あまんず(amans=ama(尼)+ns(ナース、看護師))」として活動中。

「お母ちゃん、お父ちゃんがいないから何もしないじゃないか」って言い出しました。子どもに暴力的なこと言われて傷ついたAさんは親子分離が図られたんです。当時Aさんは75歳を過ぎてましたから、近くの高齢者の施設に入所しました。そうしたら4日もしな

良い話があるんです。ある利用者のAさんは、現在78歳。3年前までは一家を成していた奥さんで、お子さんが二人いらつしやいます。ある時、旦那さんが急死されたのですが、実は家事や子育ては旦那さんがしていて、Aさんは「お母ちゃん」という存在だけであつて、お母ちゃんとしての役割は全部旦那さんがやっていたんです。旦那さんが亡くなると子どもたちは

互いの居場所を互いに作る

「お母ちゃん、お父ちゃんがいないから何もしないじゃないか」って言い出しました。子どもに暴力的なこと言われて傷ついたAさんは親子分離が図られたんです。当時Aさんは75歳を過ぎてましたから、近くの高齢者の施設に入所しました。そうしたら4日もしな

うちに、他の利用者さんが「障がい者である」この人とは一緒に暮らせないといい出して、早々に退所させられてしまいました。それでここに入所されたんです。そうしたら、ここではAさんの一方的なお喋りにも、他の利用者さんは嫌な顔をせず「うんうん」って聞いてくれた。つまりAさんは、ここでは全然困った人でも特異な人でも、ましてや問題になる人でもなかったんです。居場所が出来たんです。



「活動」の一環で制作する販売用オリジナルマット。靴下の廃材を利用しており、吸水性が抜群。



思わず利用者のおしゃべりに花が咲くあまみず

たいな話ですね。私はこの話をお墓まで持って行きたい(笑)。

飯島▼利用者さん同士でなければ分からないところでしょうか。

北澤▼色んな方の暮らしがあるから、人を人として受け入れてもらえる背景があるのだと思っています。私たち職員がやらなきゃいけないことは、人それぞれを評価して、「この人にはこういう良い所がある」ってみなさんで確認し合うことで、それぞれの個性や人脈の組み合わせや相乗効果を考えます。そうすると利用者さん同士の暮らしの幅が広がり、仲間が広がりやす。本当に、暮らしを支えているのは利用者のみなさんであって、私たちではないって思いますね。

支え合いの自立

北澤▼元々ここは、長野県が運営する知的障がい者総合援護施設『西駒郷』の補完施設、高齢者の受け入れ先として設置されました。

例えば、現在70歳代の方は『西駒郷』が出来た昭和43年当時は30歳代で、それまでは何をしていたかという、ずっと在宅で家族内就労、お父さんやお母さんと一緒に耕作だとか草刈だとかをシャカリキにやっていたんです。

それが施設に入ると、集団で500人もいて、訓練以外は比較的楽な暮らし、ご飯は黙っていて

も出てくるし、衣装も寝床もちゃんと用意されています。そういう施設の環境にどっぷり浸かって、やがて悠生寮にやって来ます。その頃には、体力は年齢相応に落ちて、相応の介護も必要になります。しかし障害から来る支援の困難さとか、障害が更に重度化してくるパターンは少ないんですね。それはやはり青年期に、在宅でキチッと体を動かしながら社会で暮らししていたのが大きいと思います。

そういうみなさんに対して、日頃の「活動」(穂高悠生寮の利用者による奉仕作業や物品制作)というのを提供して5年になります。最初は手探りでしたが、基本的には「ここ(悠生寮)から外へ出よう」ということで公園の掃除とか、ボランティア的なことから始めました。やがて寮内の作業場で薪割りやマット作りを始めました。すると、やっぱり思い出してくるんですよね、昔の感覚を。

ある利用者さんは、薪割りをするようになってから昔のことを思い出して、運搬は職員の指示がなくともテキパキこなすようになりました。ある時、薪に予約が入って、明日が出荷という日の朝、その利用者さんがブラシを持って、積み上げた薪の埃やクモの巣を丁寧に払って、一把一把トラックに積んでいきました。それを見ていた他の利用者も、一緒に手伝い始めたんです。

そういうのを私は「(社会生活の感覚が)蘇った」って表現するけれども、かつこい職員たちは「復権だ」って言うんですね(笑)。やはり昔取ったものが蘇るっていうチャンスはいくらでもあって、それを私たちがどうやって提供するか。利用者さんの暮らしは利用者さんに支えられて、私たちは「活動」の呼び水をしてあげる。決して新しい試みとかではなくて、昔やったことを少し思い出して、利用者さんが喜んで継続していけば、それが生き甲斐になると思いました。

飯島▼その人に合った仕事、作業の内容ってというのがその人の存在場所っていうことですよ。自分の位置を確認できる場所って良いですよ。

北澤▼今の「障害者自立支援法」では、人の介助を極力無くして、働けて、一人で住まえる、この3パターンが「自立」だということになっていますが、私は、障がい者が一人で暮らせなくても、みんなが支え

てあげれば暮らせると思うんです。そういう意味では、このみなさんは、『立支法』という自立度は低いかもしれないけれど、志は完ぺきに自立、だと思っています。

飯島▼一人で何でもかんでも他の手を借りずにできるのが自立ではなくって、手を貸し合うこと、イコール自立。それぞれの自立。

北澤▼そうそうそう。互いに認め合うってことでしょ。そう思います。**飯島**▼なるほど。そう捉えると、自立の意味の解釈自体が違ってきますよね。

社会福祉法人りんどう信濃会 穂高悠生寮

長野県立の知的障がい者総合援護施設『西駒郷』の保護者らが中心となって、比較的高齢な知的障がい者の居住施設として設置された県下6か所の悠生寮のうちの一つ。

穂高悠生寮の正面玄関



昭和58年に開設された。定員は男性25名、女性25名の計50名。

〒399-8305

長野県南安曇郡穂高町牧

電話 (0263) 8314728

FAX (0263) 8314727

URL <http://www.hotakayusei.jp/>

道元禅師頃の守持衣と掛絡

道元禅師は貞応二年(一二二二)、二十四歳の時、明全らとともに入宋した。四月の初め、慶元府(明州、寧波)の港に着き、天童山、阿育王山をはじめ杭州の径山の興聖万寿寺、台州の天台山の万年禅寺、台州の小翠岩、温州の雁山の能仁寺、さらに大梅山など各地の禅寺を遍歴し、嘉祿二年(一二二六)三月、天童山で如浄に参じて正伝の仏法を伝授された。入宋後五年を経た安貞元年(一二二七)秋、宋より帰国している。

禅師は慶元府の南方にある天台山を訪ねているが、天台山は智顛(五三八―五九七)が修禪の地として入り、堂塔を整備して国清寺を開いた地である。天台宗の根本道場で、我国の最澄、円珍、裔然、成尋、重源、俊苺、栄西ら多くの日本僧が天台山の地を踏んでいる。天台山巡礼のハイライトとされたのが石梁瀑布であった。ここは

五百羅漢と呼ばれる五百人の聖僧が示現する場所と信じられ、天然の石橋の下をほとばしる滝の景観で知られている。この石橋を無事に渡り、生身の羅漢にまみえて茶を供えることが天台山巡礼の最大の目的であった。

天台山の五百羅漢の姿を描いた図が、平成二十一年七月十六日より八月三十日まで奈良国立博物館で開かれた「聖地寧波」展で出品された。これは京都市の大徳寺に所蔵しており、一幅に五人の羅漢が描かれて百幅となっていた。しかし、江戸初期には六幅が亡失しており、アメリカのボストン美術館やフリーア美術館にも十二幅が所蔵されている。

銘文によれば十二世紀の後半、慶元府の東南にある東銭湖のほとりにあった惠安院の僧義紹が、淳熙五年(一二七八)から十年の歳月をかけて林庭珪と周季常という二

人の画人に描かせ、惠安院に奉納されたものであった。道元禅師が入宋する三十五―四十五年程前のことである。

この羅漢図の特色は、仏教史上のさまざまな出来事をあらわす事例や経典などに基づく仏教説話の事例、さらに当時の僧院における集団生活の様子を写した一連の内容がふんだんに描きこまれていることである。そのため当時の僧院生活を伝える視覚資料としても注目されるものであった。

その四十八幅に浴室を訪れる様子がある。よくみると、上方部に草履が整然と並べられている。太鼓が打ち鳴らされ、風呂の準備が整ったことを知らせているように、風呂敷包みを持った羅漢たちが次々と集まってきている。五人の羅漢はすべて掛絡を搭けている(図一)

その掛絡は一長一短の五条衣で、

腰から下半身をおおう大きな掛絡である。竿は一本で、左胸あたりには円環がついており、一文字の鉤で袈裟を吊るしている。左側の竿が背中にあるところから、守持衣のように腹部より右側の下半身をおおう搭け方と思われる。そのため掛絡のような二本の竿で前から搭ける搭け方ではない。

この図から禅師の入宋以前中国での掛絡の様子を知ることができ、禅師も入宋中にこのような掛絡を搭けていたのであろうか。いろいろな想像が浮かんでくる。

『正法眼藏』袈裟功德には、入宋中の嘉定十七年(一二二四)十月に慶元府であった二人の高麗僧(智玄、景雲)のことが述べられている。彼らはしきりに仏教経典の意義を語り、文学にも心得のある人であった。しかし、袈裟も応量器もなく、俗人のようであったといわれる。このことから当時は、袈裟を搭け

ずに往来していた僧のいたことがわかる。

また、『正法眼藏』伝衣には、西天より伝来せる袈裟、ひさしく漢唐につたはれることをあらためて、小量にしたがふる、これ小見によりてしかあり。小見のはづべきなり。もしいまなんぢが小量の衣をもちいるがときは、仏威儀おほく虧闕することあらん」とっており、インドから伝来した袈裟が長い間中国に伝わり、五条衣を掛絡という小型のものに改めた見解に従っている。これは考え方が小さいためであり、自己の小見をはずかしく思うべきである。もし今、あなたが小量の袈裟を着用するよいうなことでは、仏の威儀が多く欠けることであろうということから、道元禅師の時代には小量の衣である掛絡はあったが、それは仏の威儀でないという。

さらに、『正法眼藏』袈裟功德には

「しかあるに、いたづらに西天を本とせず、震旦国にして、あらたに局量の小見を今案して仏法とせる、道理しかあるべからず」今案の新作袈裟を受持すべからず」唐土の新作は正伝にあらず」いま震旦新作の律学のともがらの所製の袈裟のごとくなるなし。くらきともがら、律学の袈裟を信ず、あきらかなるものは抛却するなり」といい、小量の衣は袈裟を中国的に変えた律学者によって生まれたものとみている。

以上のことから五人の羅漢が搭けている掛絡は掛絡でなく、道誠の『釈氏要覽』や睦庵善卿の『祖庭事苑』にいう守持衣ではなかるうか。堅二肘、横四肘の最小の安陀衣で、臍から兩膝の三輪をおおう大きさである。

その一方、絡子(掛絡)も存在しており、円覚寺の無学祖元(一一二六―一八六)や古林清茂(一二六二―一三三九)の大掛絡(図2・3)、それより約一二〇年程後になった以亨得謙(一一四〇―一二〇二)の頂相ちんさうで明らかのように前から搭けるものであった。

道元禪師は中国的に変えられた掛絡を搭けなかつたように思われるが、守持衣は搭けられていたのであろうか。未だはつきりしない

のが現状である。ただ、この羅漢図によって『釈氏要覽』や『祖庭事苑』にいう守持衣の形態と搭け方が証明できたのである。

●

平成二十一年七月に発行した「そうせい」第百四十六号で紹介した「環付きの守持衣」は、兵庫県加東市岡本の楞嚴寺の所蔵と紹介しましたが、総持院の誤りでした。ここに訂正させて頂きます。

十三回にわたって身近な袈裟である絡子(掛絡)をとりあげてきた。たまたま五島美術館で開か

れていた「鎌倉 円覚寺の名宝」展で出品されていた大掛絡をみて研究するきっかけとなったが、木像や肖像画、絵巻図などからも絡子を見出すことができた。

また、守持衣も続々と見出すことができ、かつて曹洞宗では守持衣を用いていたことが実証できた。

本連載は本年度中に『曹洞宗の絡子への変遷』と題する一著となり、発行される予定である。ここに多くの方々より情報やご協力をいただいたことに感謝し厚くお礼を申し上げて謝する。



図1 守持衣を搭けて浴室を訪れる羅漢図(図録「聖地寧波」より転載)



図3 古林清茂の大掛絡(井筒雅風「法衣史」より転載)



図2 無学祖元の用いた大掛絡(図録「鎌倉 円覚寺の名宝」より転載)



清和源氏の流れを汲む島田家の菩提寺

長溪山 永源寺を訪ねて

本堂 ●昭和51年、三十一世佛戒禅明前住職によって完成された



〈写真、右から〉
島田家の家紋「丸に三割剝花菱」
釈迦堂(旧、本堂)脚柱上部の彫刻
釈迦堂(旧、本堂)正面の欄間彫刻
島田家の家紋が施された屋根瓦
境内に安置された愛らしいお坊さま



三河武士旗本の
島田次兵衛尉重次が建立

清和源氏の流れを汲み、土岐氏の
一門とされる名門島田家。坂戸の地
を一族の居住地と定め、島田次兵衛
尉重次によってこの地に菩提寺が建
立されたのは文禄元年(一五九二年)
のこと。現在、島田家の屋敷跡は不
明だが、一万余坪の敷地を誇る寺の
周囲には二重に堀が巡らされていた
痕跡があり、この場所が屋敷跡でも
あったのではないかと推察される。

島田家は、重次の祖父十兵衛の代
には松平広忠に、父利秀の代では徳
川家康に仕えた。豊臣秀吉が北条氏
直を滅ぼした際、その先鋒としての
家康の活躍を讃えて秀吉から関八州

通称、「お釈迦さまの寺」として知られる永源寺。毎年五月五日は盛大な
「花まつり」が執り行われ、地元の人たちに広く親しまれている。その一
方で、寺の成り立ちには由緒ある歴史もまた刻まれている。徳川家康の
側近、三河武士旗本の島田次兵衛尉重次が坂戸の地を治め、ここに菩提
寺を建立したのは今から四百年以上前の文禄元年(一五九二年)であった。

を賜った天正十八年(一五九〇年)、
それより以前に重次は家康腹心の配
下として、すでに坂戸とその周辺
の地を領有・統治していた。その後、
この地に菩提寺を建立したのである。

開基は父の右京亮利秀、開山は当
時の関三利の二つ越生流ヶ谷の龍隠寺
十四世大鐘良賀禅師である。そして、
寺号は利秀の隠居後の号、入道永源
より命名された。寺は慶長十八年(一
六二三年)、二代將軍徳川秀忠より寺
領二十四石余りを賜り、その後代々
この寺領を拜することとなる。また、
萬治三年(一六六〇年)には永源寺四
世住職鉄心御州禅師が大本山永平寺
十九世大覚仏海禅師として曹洞宗門
最高の栄誉に昇進し、ときの後西天
皇より勅賜禅師号の御宸筆を賜った。
この御宸筆は、永源寺の寺宝として
いまでも大切に保存されている。



取材にご協力いただいた三十二世山崎崇明住職(右)と彩青会(会計担当)の中村義顕師(左)



〈上右〉現在の鐘楼堂(奥)と旧、鐘楼堂の屋根を残した花御堂(手前)。
 釈尊降誕祭ではこの花御堂に誕生仏が祀られ、甘茶をかけて祈願する
 〈上左〉鐘楼堂の梵鐘(龍殿鐘)。旧、梵鐘もこの中に溶かし込んで再建された
 〈下右〉永源寺歴代住職の墓碑。三十世までの住職がここに祀られている
 〈下左〉島田家の墓地。開基、島田右京亮利秀を正面に、コの字型に配されている



〈上〉大鐘殿法堂●間口22メートル余り、奥行20メートル余り、最高棟高21メートル余りに及ぶ県下に誇る名伽藍
 〈下〉降誕釈迦堂●大鐘殿法堂の完成に伴い、釈迦堂として移築された。釈尊降誕祭ではここで祈禱が行われる



本堂(右)と釈迦堂(左)が新旧の造形美を讃え合うかのように並び建つ境内。その間に建つのが花御堂

二十世黙室良要禪師により七堂伽藍が完成

開創以来の伽藍は寛文二年(一六六二年)の「丙丁の災」で焼失。その再建に尽力したのが、ときの長崎奉行島田忠政であった。翌三年、忠政によって伽藍は再興され、その際、忠政が中国から賜った降誕釈尊仏像や抱兔官女像、龍馬児遊香炉を寺に奉納した。この由緒をもって、以来「釈尊降誕祭」が執り行われるようになった。その後、文化十年(一八二三年)、二十世住職黙室良要禪師によつて七堂伽藍は完成を見るに至る。これを期して、禪師の晋山式には全国から多くの禅僧が集つたといわれ、釈尊

降誕祭もまたひと際盛大な祭事として執り行われるようになった。しかし、弘化三年(一八四六年)、再び全山が焼失。嘉永二年(一八四九年)、庫院のみを再建するが、明治以降は島田家の退転によつてその庇護を失い、本堂の再建は果たせぬままに四十年近い時が流れた。これを自力で成し遂げたのが二十世住職孝山実道禪師である。明治十八年(一八八五年)、本堂が完成。現在の本堂は昭和五十一年(一九七六年)に建立されたものだが、日本堂は「釈迦堂」として、また現在の本堂は「大鐘殿法堂」として、ともに新旧の造形美を讃え合うかのように並び建っている。



永源寺に伝わる寺宝の数々

- 1 後西天皇禪師勅賜御宸筆
- 2 降誕釈尊仏
- 3 龍馬児遊香炉
- 4 抱兔官女像
- 5 島田家奥方使用の化粧道具箱
- 6 徳川秀忠寺領安堵状が納められた御朱印箱





乗た直利
名とな郎
哲に三
を僧に
自らを
たって
権三
という
の供養
塔

権三郎と綱宗の 恋のさや当て



萬治高尾の墓 ●高尾の墓碑には「万治三庚子極月廿七日、月桂円心大姉」とある

島 田家の歴史の中に、島田権三郎利直にまつわる悲運の恋物語がある。権三郎は島田忠政の五男で、四代將軍家綱の御小姓を務めたとされる。その恋敵である伊達綱宗は仙台の外様大名で、吉原の名妓三浦屋の二代目高尾に入れ揚げる。これがのちの「伊達騒動」の発端ともいわれ、歌舞伎や浄瑠璃の演目で有名な「伽羅仙台秋」はこの逸話をもとに作られた。

権三郎に想いを寄せる高尾は綱宗の手を逃れ、二人は坂戸の地に逃げのびるが、病身であった高尾は萬治三年（一六八〇年）二月二十七日、その生涯を閉じた。

永源寺に葬られた高尾の墓石には「万治三庚子極月廿七日、月桂円心大姉」の戒名が刻まれている。高尾の死後、権三郎は自らを道哲と名乗って仏僧となり、高尾の菩提を弔って一生を過ごしたという。実は高尾の死には諸説あり、定かなことはわからないのだが、萬治三年に亡くなったことから萬治高尾と呼ばれるようになった。

坂戸の一大イベント

平成十七年度より、毎年五月五日に行われている釈尊降誕祭。地元の人には、お釈迦さまとして古くから親しまれている。かつては旧暦の四月八日新暦では五月二十一日に行われていたが、養蚕が盛んだった坂戸では、この時期は繁忙期にあたることから、明治四十一年（一九〇九年）以降、五月八日に変更された。さらに近年、近隣の交通事情などから五月五日の「このもの日」に行われるようになり、このことがさらなる賑わいと呼ぶ結果につながっている。



釈迦堂では午前8時から午後7時まで、1日4回のご祈禱が行われる



本堂には背中に誕生物を乗せた白象が安置される

「お釈迦さま」の呼び名で親しまれる 永源寺 釈尊降誕祭

写真提供：永源寺

庄巻の「おいらん道中」

釈尊降誕祭の起こりは、島田忠政が長崎奉行を務めた折に中国から賜った誕生仏を伽藍の再興と併せ、寺に奉納したことに始まる。

本堂前の花御堂に祀られた誕生仏に甘茶をかけ、無病息災や家内安全を祈念するもので、釈迦堂で執り行われる厳粛なご祈禱の他に、境内ではさまざま催しや露天の出店が楽しめる。なかでも、萬治高尾の逸話になぞらえた「おいらん道中」は庄巻で、総勢三十人も大行列が絢爛豪華な衣装に身を包み、交通規制された沿道を練り歩くさまは必見。

祭りには、坂戸市の指定無形民俗文化財にも指定されており、毎年十万人近い人出で賑わうという。

三十二世山崎住職の「この伝統はこれからも絶やすことなく守り続けていきたい」との言葉に、強い熱意が伝わった。

境内や沿道での催し



奉納太鼓



おいらん道中



はしご乗り



参詣客は花御堂の誕生仏に甘茶をかけ、無病息災や家内安全、商売繁盛を祈願する

